

ボッチャ昭島カップルール（レクリエーションルール）（案）

1 試合のエンド数について

- ・ 1 エンドは5分間とする。

《準決勝から》（決勝進出ブロックが増えた場合、「準々決勝から」）

- ・ 1 試合最大4エンドとする。
- ・ 3 エンド終了時に逆転が不可能となった場合には、その時点で勝敗を決定する。
- ・ 試合時間内に3エンドが終了していない場合には、速やかに3エンドを消化させ、3エンド終了時点での勝敗を決定する。

《上記以外》

- ・ 1 試合2エンドとする。
- ・ 試合時間内に2エンドが終了していない場合には、速やかに残りエンドを消化させる。
- ・ タイブレイクを行わない。

2 試合時間について

- ・（準々決勝）準決勝、3位決定戦、並びに決勝戦については、20分間とする。
- ・ 上記以外については、10分間とする。

3 タイブレイクについて

- ・ じゃんけんを行い、勝者が先攻・後攻を決める
- ・ ジャックボールについては先攻のボールを使用する

4 投球数について

- ・ 1 エンド6投（一人2投）

※エンド毎のメンバー入れ替えは認める

※1人が2投まで投げることができ、連続で投球しても構わない

5 コートについて

特設コート（バドミントンコート約半面）

6 一人用のスローインボックスについて

- ・一人用のスローインボックスは設置しない
- ・じゃんけんを行い勝者が左右どちらかのボックスを選択する。

※左のボックス（赤ボール）を選択⇒第1エンドジャックボール

※右のボックス（青ボール）を選択⇒第2エンドは同じボックスでジャックボール

※エンドが変わっても各チームはボックスを移動しない。

※投球しないプレーヤーはコートの外に出ても構わない。

（静かに待機し、他チームの迷惑にならないようにする）

7 ペナルティについて

- ・原則、ペナルティスローは認めない
- ・ラインを踏む、ラインを越えるなどの行為を確認した場合には、審判が投球前に注意を行う
- ・万が一、前述の行為について止められず投球をしてしまった場合には、ボールの配置を両チームから選出された一名ずつと確認し、再投球を行う
- ・本大会は交流を目的とした大会であることから、各種反則は未然に防ぐことを優先とし、ペナルティについては極力与えないようにするが、悪質な反則行為等を故意に繰り返すなど、進行や他チームへの妨げになる恐れがある場合には、審判長と協議し、ペナルティを課す場合がある

8 エンドのはじめに、ジャックボールをコート外に投球してしまった場合について

- ・相手チームが右のボックスからジャックボールを投球して、青ボールの先攻とする

※上記の場合においても、第2エンドは青ボールが先攻となる。

【その他の事例への対応】

①ジャックボールがコートの外に出た場合

ジャックボールはクロスの上に置く。ジャックボールに最も近いボールのチームと反対のチームの投球から再開とする。

②コートから全てのボールがなくなった場合

ジャックボールをクロスに置き、その状況を作り出したチームの投球から再開とする。

③ジャックボールのみコートに残った場合

その状況を作り出したチームの投球で再開する。その際、投球者を変更しても構わない。

④カラーボールがジャックボールと等距離になった場合

点数が同点の場合は、その状況を作り出したチームの投球から再開とする。

点数が同点ではない場合は、点数の少ないチームの投球から再開とする。

9 チーム内での相談について

- ・付き添いも含め、チーム内での相談は可とする
- ・他チームの迷惑にならないよう静かに相談を行うが審判が、迷惑になっていると判断した場合には口頭で注意を行う
- ・審判が注意をしても改善されない場合には、相手チームが投球時の相談を禁止とする。
- ・審判に点数を確認したり、ボールの配置を確認するためにコート内へ立ち入りをする事が出来るのはパドルが出ているチームのうち一名のみとする

10 ランプやマイボールについて

- ・自身のランプやマイボールの使用は認める

11 その他

- ・その他のルールについてはボッチャの基本ルールに準じる
- ・疑義等が生じた場合には、審判長に確認を行う
- ・各エンド終了時には両チームの代表者にて得点用紙の確認を行う